

那覇港総合物流センターの整備について

○整備理念

那覇港総合物流センターは、本県の生活・産業関連貨物の大部分を占める港湾貨物を取り扱う那覇港において、集貨・創貨を促進することにより取扱貨物の増加を目指し、物流の高度化を図るとともに、流通加工等の新たな価値を生み出す付加価値型産業の集積を図る総合物流施設として整備するものである。



【那覇空港との位置関係】



□那覇港総合物流センターの敷地は、那覇国際コンテナターミナルと国内貨物の取り扱い岸壁の間に位置していることから、国際物流機能の集積を促進する総合物流センターの建設に適した場所である。

□那覇港と那覇空港を結ぶ「那覇うみそらトンネル」が開通したことでアクセスが向上しており、海上貨物と航空貨物とのSea and Airによる連携が進むと総合物流センターの需要は高まると予想される。

那覇港と国際物流拠点産業集積地域の位置関係

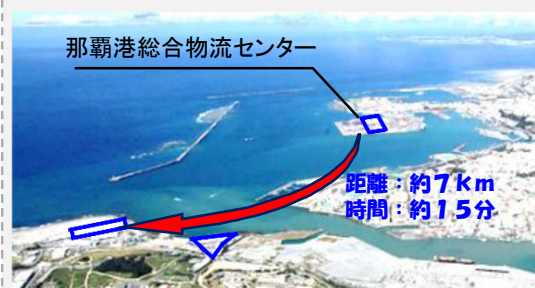
那覇港総合物流センター予定地は、
「国際物流拠点産業集積地域」に含まれております。

当該地域では、税の優遇制度等を利用
することが可能です。

那覇港総合物流センターからの交通アクセス
⇒那覇空港 約7km 約15分
⇒うるま市旧特自貿 約30km 約45分

(参考)

旧：那覇地区・那覇空港地区・那覇港地区



※旧3地区の区域(上図青枠内)は、新たに指定した那覇・浦添・豊見城・宜野湾・糸満地区の区域に内包されている。

国際物流拠点産業集積地域は平成26年6月にエリアが拡大しました。

那覇・浦添・豊見城・宜野湾・糸満地区



うるま・沖縄地区 ※下図の赤枠内



※上図の青枠・斜線部分は、旧うるま地区(特自貿)の区域

【那覇港総合物流センターのコンセプト】

東アジアの中心に位置する那覇港の特性を活かし、
東アジアネットワークと国内ネットワークを繋ぐ国際物流拠点

【国際輸送】

- ・外貿コンテナ船
- ・航空機

【価値付加機能】

競争力の高い貨物を創出する機能

那覇港 ロジスティクス・ハブ

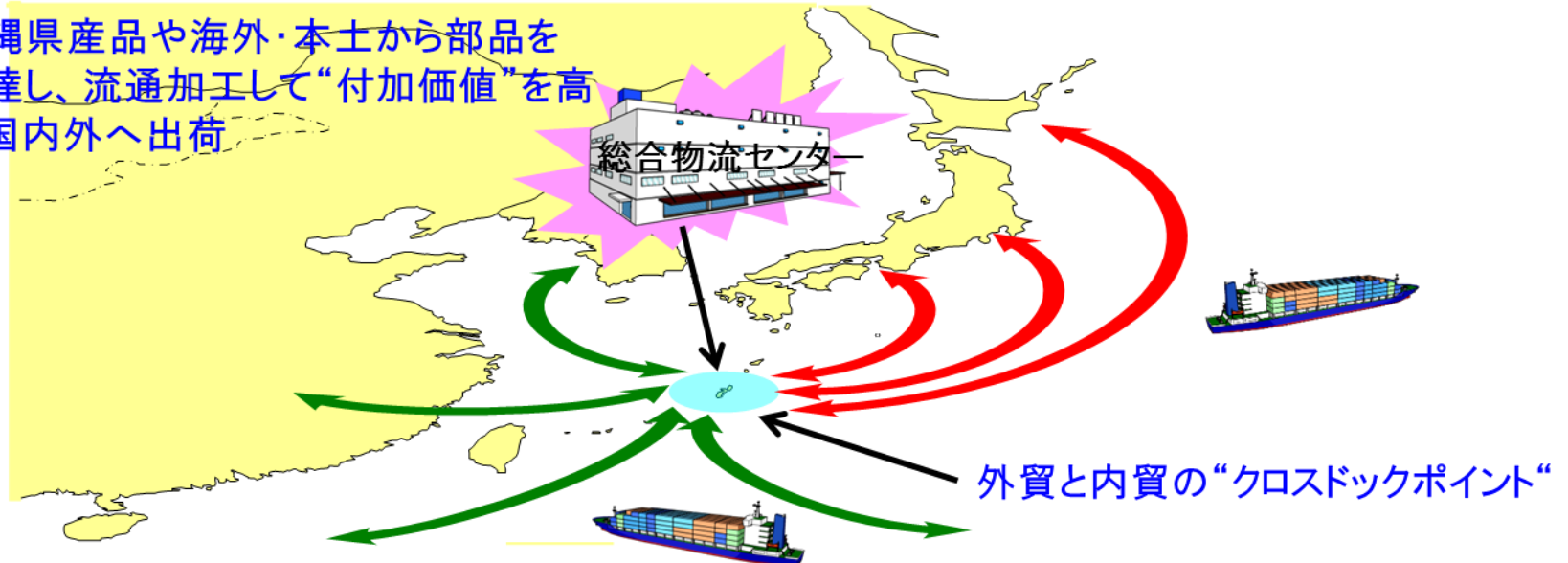
【物流高度化機能】

東アジアの物流結節拠点(クロスドックポイント)としての機能

【国内輸送】

- ・内貿定期船
- ・トラック
- ・航空機

沖縄県産品や海外・本土から部品を
調達し、流通加工して“付加価値”を高
め国内外へ出荷

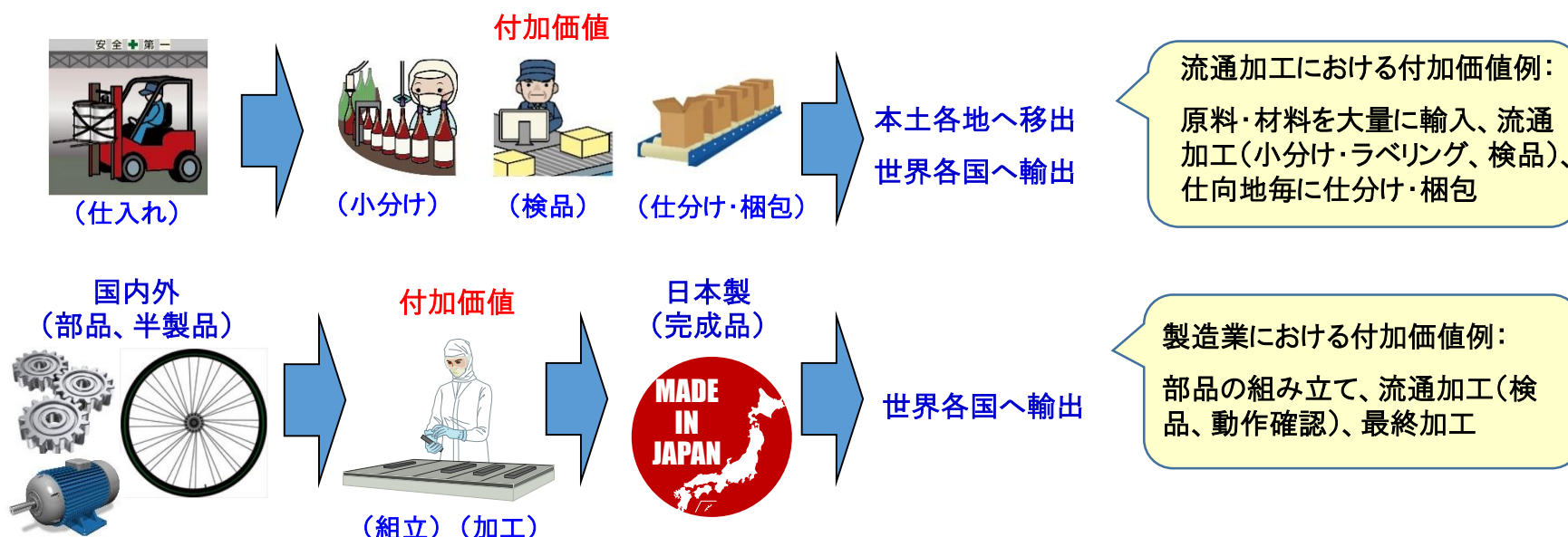


[那覇港総合物流センターの導入機能のイメージ]

①物流の高度化：保管、積み替え、検査、混載



②付加価値の高い貨物を創出



当地区に上記のような組立加工企業を誘致するため、各種優遇制度を活用できる“国際物流拠点産業集積地域”に指定